

第38回 地域づくり団体  
全国研修交流会長崎大会

# 開国の地 長崎

～地域づくりの夜明けは長崎から～

## 報告書

開催・会場

令和4年  
11/ **4** **金** 18:00～  
全体交流会  
(長崎市:サンプリエール長崎)

令和4年  
11/ **5** **土**  
分科会・交流会  
(分科会13会場)

令和4年  
11/ **6** **日** 10:00～12:00  
全体会  
(長崎市:サンプリエール長崎)  
(離島4会場)  
※離島4会場からTV会議参加





# 目次

■大会概要..... 2

## 《全体交流会》

■主催者開会あいさつ..... 長崎大会実行委員長 山口 成美 3  
 ■歓迎あいさつ..... 長崎県知事 大石 賢吾 4  
 ■来賓あいさつ..... 地域活性化センター理事長 椎川 忍 5  
 ■乾杯発声..... 長崎市長 田上 富久 6  
 ■閉会あいさつ..... 長崎大会実行委員会副委員長 福喜 哲史 6

## 《全体会》

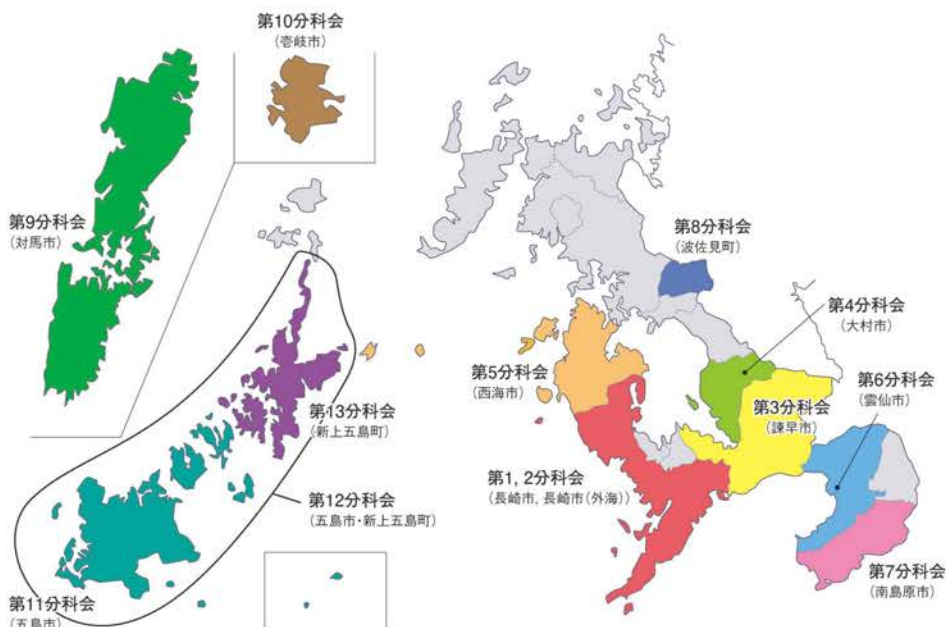
■主催者開会あいさつ..... 地域づくり団体全国協議会会長 岡崎 昌之 7  
 ■歓迎あいさつ..... 長崎県副知事 平田 研 8  
 ■来賓あいさつ..... 総務省地域力創造審議官 大村 慎一 8  
 (一財)地域活性化センター常務理事 川住 昌光 9

## ■分科会開催報告

第1分科会 (長崎市).....	10	第8分科会 (波佐見町).....	24
第2分科会 (長崎市 (外海)).....	12	第9分科会 (対馬市).....	26
第3分科会 (諫早市 (飯盛)).....	14	第10分科会 (壱岐市).....	28
第4分科会 (大村市).....	16	第11分科会 (五島市).....	30
第5分科会 (西海市).....	18	第12分科会 (五島市・新上五島町).....	32
第6分科会 (雲仙市 (千々石)).....	20	第13分科会 (新上五島町).....	34
第7分科会 (南島原市).....	22		

■トークセッション..... 地域づくり団体全国協議会会長 岡崎 昌之 36  
 長崎大会実行委員長 山口 成美  
 兵庫大会実行委員長 宇高 昌利  
 島根大会実行委員長 細田 浩之

■次回開催県PR..... 島根県 39  
 ■閉会あいさつ..... 長崎大会実行委員長 山口 成美 40  
 ■分科会にご参加いただいた皆様..... 41  
 ■参加者の声..... 42  
 ■協賛企業..... 43  
 ■全体交流会 フォトギャラリー..... 44  
 ■次回大会のご案内..... 49



各分科会の  
動画はこちら



# 大会概要

## 第38回地域づくり団体全国研修交流会 長崎大会

### テーマ

開国の地 長崎 ～地域づくりの夜明けは長崎から～

### 開催趣旨

多くの離島を有し、美しい自然と豊富な食・観光資源に恵まれた長崎県は、異国の文化を受け入れながら、多くの人と交流し栄えてきました。この「開国の地」長崎において、全国レベルの研修や情報交換を行い、郷土愛の醸成、県内外の地域づくりネットワークの強化・活性化を図り、若い世代と共に新しい地域づくりを目指す「第38回地域づくり団体全国研修交流会長崎大会」を開催。

### 主催

地域づくり団体全国協議会  
第38回地域づくり団体全国研修交流会長崎大会実行委員会  
長崎県地域づくりネットワーク協議会

### 後援

総務省  
一般財団法人地域活性化センター  
公益財団法人長崎県市町村振興協会

### 特別協力

一般財団法人 全国市町村振興協会

### 開催日時

令和4年11月4日(金)～11月6日(日)

- ・全体交流会：4日(金) 18:00～
- ・分科会：5日(土)
- ・全体会：6日(日) 10:00～12:00

### 開催場所

- ・全体交流会：サンプリエール長崎(長崎市元船町2番4号)
- ・分科会：長崎県内13会場
- ・全体会：サンプリエール長崎(長崎市元船町2番4号)

# 全体交流会

## 主催者開会あいさつ

長崎大会実行委員長  
山口 成美



皆さん、こんばんは。  
ようこそ長崎の地へおいでいただきまして、ありがとうございます。

先ほどのオープニングはいかがだったでしょうか。

本日は、第38回地域づくり団体全国研修交流会長崎大会に北は青森県から、南は沖縄県まで全国各地から本長崎大会にご参加いただき感謝を申し上げたいと思います。

また地域づくり団体協議会の岡崎会長を始め、地域活性化センターの椎川理事長、また本大会にご後援をいただいております、総務省の足達審議官、また日頃より私たちの地域づくり活動に御支援をいただいております、長崎県知事の大石知事、長崎市長の田上市長にもご来賓としておいでいただいております。厚く、御礼を申しあげます。

私たち大会実行委員会は、この長崎大会の開催に向けて令和元年より、いち早く実行委員会を立ち上げ、これまで実行委員会を14回行い、検討してまいりました。

今回の長崎大会の大きな特徴としては、長崎の地の利を生かして、離島県でもある長崎県を全国にアピールをしようじゃないかということで、離島を含む県下各地に分科会を開催したいという思いから、離島の5会場を含む県内13会場で分科会を開催することとして準備を進めてまいりました。

しかしながら、その後コロナ禍の影響により、令和2年より、2回の延期を余儀なくされました。

この2年時期をずらさないといけなかった、だからこそ14回の会合ができ、この間にますます地域づくりの仲間の団結力が上がったのではないかな、という風にプラス思考で考えております。

その2年間遅れてようやく今日になったわけですが、遅れたおかげで、新幹線は通り、「舞い上がれ! (NHK連続テレビ小説)」は放送されて、大変長崎県中が舞い上がっております。

そういった意味でもコロナで失った事もたくさんありますが、コロナで得たものもたくさんあるのではないかと考えているところでございます。

この間、私たちはコロナ禍でも歩みを止めない地域づくりを行うことが大事という想い、長崎大会をぜひ成功させたいという思いを共有し、これまで取り組んできて、やっと本日ここに開催をする運びとなりました。

コロナ対策、またデジタル化を取り入れた申し込み方法や全体会の開催など、試行錯誤しながら、今後を見据えて初めての取り組みによる本大会の開催でございます。

何分、不慣れなところもあり、不行き届きの点があると思えますけれども、大会スタッフ一同、この2年間の思いを込めて、皆様方をおもてなしさせていただきたいと思っております。

大会を通して、このご縁を大切に、よりつながりを深め、本大会のスローガンであります「開国の地 長崎～地域づくりの夜明けは長崎から～」にふさわしい大会に作り上げていきたいと思っておりますので、今日から3日間、皆さん方のご協力をお願いして、ますます地域が盛り上がっていくように一緒に頑張ってもらいましょう。

本日はどうもありがとうございます。

# 全体交流会

## 歓迎あいさつ

長崎県知事  
大石 賢吾



長崎県知事の大石賢吾でございます。本当によろしく  
いらっしゃってくださいました。

日本中から来ていらっしゃるということで本当にうれ  
しく思います。

また、このような2年越しの思いが詰まった大会に、  
私もお声がけをいただいて光栄に思っている次第でござ  
います。

少し長崎のお話をさせていただきたいと思えますけれ  
ども、もう皆さんも知っている方も多いと思えますが、  
長崎は離島が一番多い県でございます。先ほど 実行委  
員長からお話がありましたけれども、実を言うと「舞い  
上がれ！(NHK連続テレビ小説)」で有名になっています、  
私、ふるさが五島列島の富江でございます。

五島は海が大変綺麗なところでは食べ物も大変おいし  
くて、もちろん今回分科会ということで五島にも行って  
下さるという風に伺っております。これだけ、全国の方  
々が長崎に来て、いろんな土地の食材も文化も体験して  
くださるということで、本当に期待をしているところで  
ございます。

また、今日私事で申し訳ないんですけども、朝イチか  
ら、東京の大田市場で長崎県産の長崎みかん、早生みか  
んが今日から出荷開始になり、そのためのPRをしてま  
いりました。

知事になると、1日に2回もハッピーが着れるんだなど。  
今年、私は3月2日に就任したばかりですけども、本当  
にこんな特産品が多い長崎県でございますので、是非皆  
様も楽しんでいただければというふうに思っております。

本日、「第38回地域づくり団体全国研修交流会長崎大  
会」が、コロナ禍でも関わらず、盛大に開催されますこ  
とを、まずもってお喜び申し上げます。長崎県民を代表  
しまして、全国各地からお集まりいただきました皆様方  
を、改めて歓迎申し上げる次第でございます。

また、地域づくり団体全国協議会の岡崎会長、地域活  
性化センターの椎川理事長、総務省の足達審議官におか  
れましては、県勢の発展に、日頃より格別のご尽力を賜っ  
ていることに、厚くお礼申し上げます。

本大会では、分科会が、本土の8会場、また離島で5  
会場と全13会場で開催されると伺っております。大会  
を通じまして、全国から参加される皆様方に、離島をは  
じめとした県内各地の様々な魅力を、直に体感してい  
ただけることを大変嬉しく思っている次第でございます。

ここ長崎は、古くから海外との交流によって培われた  
特色ある歴史やまた、美しい景観、食などが多彩にあり  
ます。

皆様方には、せっかくの機会ですので、そのような魅  
力も分科会の体験メニューにもなっているというふうに  
伺っておりますけれども、ぜひ世界遺産や日本ジオパー  
クといった観光資源をはじめ、地域の歴史や文化などに、  
できるだけ多く触れながら、学んでいただく機会にもし  
ていただければという風に思っております。

また、明日からの各分科会においても、本県ならではの「食」が提供されるかと思えますが、本日も、「長崎和牛」や「長崎のマグロ」、「皿うどん」なども準備してございます。実をいいますと知らない方も多いんですけども、長崎県のクロマグロ養殖は日本一でございます。また、養殖のトラフグも下関じゃありません。長崎県が1位でございます。いろんな1位が隠れた本県でございますので、是非学んで体験し、味わってお帰りいただければと思っております。

結びになりますけれども、本大会が、皆様方にとりま  
して、今回のテーマである「開国の地 長崎 ～地域づ  
くりの夜明けは長崎から～」にふさわしい、新たな地域  
づくりの契機となることを祈念いたしまして、私からの  
歓迎のご挨拶とさせていただきます。

本日はどうもおめでとうございました。

よろこそ長崎へいらっしゃいました。

# 全体交流会

## 来賓あいさつ

地域活性化センター理事長

椎川 忍



皆さんこんばんは。  
待ちに待った大会が3年ぶりにここ長崎で開催をされます。

本当に心からお慶びを申し上げたいと思います。  
そして、長崎県の皆さん、2度も延期になって気をもんでおられたかと思いますが、ようやく開催にこぎつけられ、本当におめでとうございます。また、御苦労さまでございます。

この大会は今年で38回目ということになるわけですが、実は長崎県では2回目になります。

平成12年に第13回大会を大村市で開催をさせていただいております。

さて、「地域づくり」は今こそ、とっても必要なことです。例えば、災害が起きた時に地域づくりができていない地域は本当に困っています。

それから、集落の再生の問題です。  
今、限界集落が増えてきていますけれども、これも地域づくりで支えていかないとはいけません。

それから都市も、いろんな問題が起きています。地域づくりを英語で言いますと、コミュニティビルディングというんですが、外国人の方も増えていて、やっぱり少し昔に戻って、コミュニティをきちんと作らないとごみ捨てから何から困ってしまいます。

そういうことで、地域づくりは非常に重要な問題なんですけれども、これは「昔のものだ」あるいは「高齢者がやるものだ」そういうような感じもあります。けれど私たちは、この地域づくりの必要性を、もう一度、世の中にも理解してもらい、再生をしたいということで、ここに来ておられる岡崎会長や幹事のお二人にもお助けいただいて、あり方検討会というのを数年前にやりまして取り組み始めました。じゃあ、何をやったかということです。

まず一つは、若い人たちがボランティア活動やNPO活動をやっておられますけど、これも地域づくりなんですよね。

ですから、できるだけ我々のネットワークと連携をしてもらって、我々もそういう人たちを支援していきたいと思っています。

年間3,000円の会費を払っていただくと、地域活性化センターから情報を提供してもらうことができ、地域活性化センターの財源で助成も受けられます。

是非、今後も若い人たちにもこの会にたくさんお出でいただくようお願いしたいと思っております。

来年は島根県、再来年は宮崎県、さらに栃木県、長野県と、開催場所が決まっています。

今日もたくさんの方、私が勤務した経験のある島根県、宮崎県からも見えられています。ぜひ皆さん方も長崎県の方々とともに今後の開催地の皆さんとも交流していただき、来年再来年ともっともっと楽しい地域づくりの全国大会にしていいただければと願っております。

それから、もともとこれは総務省が旗を振っていたが、地域づくり団体のネットワークをつくろうということだったんです。しかし、やっぱり役所ってというのは少し時間がたってくると、新しいものに目がいきまして、だんだんメンテナンスしてくれなくなるんです。

それで私は一計を案じて、総務省と共催で全国の地域づくり団体の会長、それから都道府県の担当課長さんにお集まりいただいて毎年会議をやるようにしたんです。

いろんな「情報を提供する」それから「今後こういうふうにやっていこうよ」という話をさせてもらって、今年山口実行委員長にも講演をしていただいたんです。

そんなことで、我々はこれからは渾身の力を込めて、地域づくりをやっておられる皆さん、団体を支援していきたいというふうに考えていますので、皆さん方も、若い人たちも巻き込みながらというのは言葉はあんまりよくないですけども、お誘いいただいてこの会を盛大にしていいただければ、というふうに思っております。

最後になりましたけれども、この大会の開催に当たってましてご尽力いただきました、長崎県の実行委員会をはじめとする地域づくり団体の皆様、分科会を開催していただく会場の皆様、それから長崎県及び県内市町の関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、この大会が今日の晴天のように素晴らしい大会となり、大きな成果を収められ、皆様方がさまざまな地域づくりに関するお土産を持って帰っていただきますように、心から祈念いたしまして、お祝いのお言葉とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

## 全体交流会

### 乾杯発声

長崎市長  
田上 富久



皆さんこんばんは。

私が会場に入ってきたとき、丁度、居留地男声合唱団の皆さんが歌っているところでした。最初、合唱団ができるとき「歌を歌おう！」みたいな感じから始まり、だんだんメンバーが増えて他の地域からも呼んでいただけるようになり、今度は外国に行ってくるよ、みたいな感じでマカオに行き歌ったりして、本当にいつもいろんな活動でまちを元気にしてくれて、まちに文化を持ち込んでくれる私の自慢の地域づくり団体です。

その歓迎の歌から始まったこの研修交流会長崎大会ですが、先程、山口実行委員長からお話があったように、2年間、開催ができませんでしたが、この2年間は決して無駄ではなく、何回も話し合いができて団結力が強くなったというその気持ちは、本当に学べる場所だと思いました。

私もまちづくりの動きの中でたくさん仲間と交流し、いろんなことを学んできました。

交流することでいろんな知恵もいただけるし、つまらない話や楽しい話のように思えても、別れるときは話す前よりもパワーアップしている自分がいて、本当に交流というのはいろんな力を生むということを体験してきました。

今回の交流の場も、明日、明後日の2日間も、皆さんのパワーアップする時間になってくれることを心から願っています。

今回、長崎に来られた市外、県外の皆さん、本当にようこそおいでくださいました。40万市民を代表して心から歓迎いたします。

ぜひ、長崎市内も観られてからお帰りいただければと思います。

今、長崎は100年に一度と言われるぐらい大きく変化していますが、これは、長崎に住む皆さんと長崎を訪れる皆さんが活躍する舞台を作っている作業で、この舞台ができれば終わりではなく、舞台の上で多くの皆さんが楽しい時間、のびのびとした時間を過ごしてくれるような舞台作りをしています。その最後の目的である住んでいる皆さん、訪れる皆さんを幸せにできる街を目指し、皆さんからお知恵をいただくためいろんなところに出かけ、地域づくりのパワーを充電しながら長崎も頑張っていきたいと思っています。

少し長くなりましたが、乾杯の音頭をとらせていただきます。

今日から始まり、明日、明後日の3日間が皆さんお一人お一人にとって素晴らしいパワーアップの時間となりますことと、皆さんが帰ってから、それぞれの地域でご活躍くださることと、それぞれのまちや地域が益々元気になることを心から祈念しまして乾杯の音頭をとらせていただきます。

ご唱和をお願いします。乾杯。

## 全体交流会

### 閉会あいさつ

長崎大会実行委員会副委員長  
福喜 哲史



皆さん、本当にお疲れ様でした。

私どもの思いを、お話しさせていただきたいと思います。

第38回地域づくり団体全国研修交流会が、この開国の地長崎において幕が開け、全国津々浦々からお集まりいただきましたこと、本当に感謝申し上げます。

地域づくりについて熱く語り、この日の出会いをもとに、さらに絆が深くなったかと思っています。

令和2年の3月ごろからコロナ感染が拡大いたしました、3年間に及んでこの大会がくしくも延期されたわけですけれども、まだコロナ感染が終息されたわけではありません。

今日から3日間長崎の地におきまして開催できますことは、実行委員会として本当に感極まるものがあります。ありがとうございます。

この大会を立ち上げからこの日まで、本当に大きくアシストいただきました、事務局の県地域づくり推進課の皆様には本当にお礼申し上げます。ありがとうございます。

また、長崎県内の地方公共団体、それから地域活性化センターなど、さまざまな方々に協力いただきましたこと、お礼申し上げます。

明日から長崎県内13会場において分科会が開催されますが、それぞれの会場にて人との出会いや地域の営み、そして長崎の食・歴史文化など数多く体験し、学び合うことでしょう。

長崎ならではの個性あふれるおもてなし、そして皆さんが感動されることを確信いたしております。

長崎県においては、昔から国際的にも融合した独特な文化があります。

これは皆さんが「わからん」というよりも、「和・華・蘭文化」なんです。

和＝日本、華＝中国、蘭＝西洋というところで、まさにこの「和・華・蘭文化」こそが長崎の地において多くのことを学ぶことになると思います。

どうか私たちは、皆様とともに掘り起こし、共に語りあい学びあい共に助け合い、これからもそれぞれの地において営々と持続可能な地域であることを皆様とともに認識して、ふるさとの活性化と人々が元気で“それぞれの地に生まれてよかった、住んでよかった”と思うように、これからも皆様と共に頑張りましょう。

本当に今日はありがとうございました。

# 全体会

## 主催者開会あいさつ

地域づくり団体全国協議会会長  
岡崎 昌之



皆さん、おはようございます。会場の皆さん、とても爽やかな中にも少し疲れが見えるようで、昨日までの分科会での研修交流がとても濃密なものだったと感じております。

3年待ってやっと長崎大会開催の機会が巡って参りました。3年間、大会開催の意志を持続するのは大変なことであったと思います。実行委員会の山口委員長をはじめ、実行委員会の皆さん、各分科会を担っていただいた皆さん、御努力と意思の継続に心から感謝を申し上げます。

また、長崎県、県内市町の皆さんもそれを支援して下さり、厚く御礼を申し上げます。3年間待ったおかげで、西九州新幹線に乗ることもできました。

今回私は、対馬に伺えませんでした。長崎県に來ますと対馬での経験をいつも思い出します。30年前の1991年から4年間、毎年対馬に伺い、美津島町の地域づくりの支援をしていました。当時、美津島町では東京のデパートと組んで特産品の開発をし、いかに福岡、東京に売り込むかを考えていました。対馬から福岡は150キロです。東京は1000キロを超える。しかし反対を向くと50キロのところに朝鮮半島の釜山があるのです。人口300万人を超える大きなマーケットです。

そこで日韓を繋いで地域づくり交流シンポジウムをやるということになりました。最終回の第4回シンポジウムの時に、薩摩焼の第14代の沈壽官さんをお招きしてお話をさせていただきました。ご存知のように沈壽官さんの祖先は慶長の役のとき、島津藩が伴って朝鮮半島から薩摩に來た優れた陶工です。数年前、残念ながらお亡くなりになりましたが、その時の沈壽官さんのお話を頭を離れません。

沈壽官さんは早稲田大学を出て、本当はビジネスの世界に進みたかった。しかし薩摩焼の沈壽官の家をどう継いでいくか随分迷っておられた。鹿児島の家に戻った時、お父さんの13代が作業小屋に連れていき、轆轤の上にぼんと土を置き、その上に針をスッと刺した。そして足でチョンと蹴って、轆轤を回したところ、土に刺さった針が微動だにせず回った。

お父さんはそれを見ながら「轆轤の上の土は、動く中にも1点だけ動かないところがある、その動かないところに指をそえて、押してやれば、土は魔法のように立ち上がる」と言われたそうです。それを見て「ああ、私はやっ

ぱり薩摩焼を継ごう」と決心したそうです。

その話はずっと私の頭と心の中に残っています。これは地域づくりにも通じる話だと、いろんな地域をお伺いしながら思うのです。地域の中にも高齢化、人口減少などいろいろな問題があります。今は、若い人が農山漁村問題に対して高い関心を持ち、移住したい、自己実現をしたい、そういうところで頑張ろうといった動きや機運がみなぎっています。

そうした動きの中に、地域の個性とか価値とか、よく見ると変わらない1点があるのではないかと。重要なのはそのように動く地域の中の不動の1点をきちんと見定めて、どう地域を立ち上げさせるかということです。

地域で暮らしてきた人たち、外から入ってきた人たちも一緒になりながら、そのツボをどう押さえ込んで地域づくりを立ち上げるかということに通じるのではないのでしょうか。そのためには、地域で頑張ってきた人と同時に、地域の外の力も一緒に入れながら、この地域をどう立ち上げていくかがこれから重要になると思います。

地域づくり団体全国協議会は、毎年各県で全国交流会を開催させていただいております。また年に3回のコーディネーター研修会も行っており、現在では若い人がたくさん参加をしてくれるようになりました。地域づくりを立ち上げ、現場の皆さんに寄り添いながら、ぜひ皆さんと研修交流を深めていきたいと思っております。

今回は大石長崎県知事、平田副知事、総務省からは足達審議官、大村審議官、また地域活性化センターからは椎川理事長、川住常務にもご参加をいただき、厚くお礼を申し上げます。

来年は島根県での全国大会です。ぜひ来年の島根大会に私も、そして今回お集まりの全国の皆さんと一緒に参加をさせていただきたいと期待をしております。

どうぞよろしく願いをいたします。

## 全体会

### 歓迎あいさつ

長崎県副知事  
平田 研



長崎県副知事の平田でございます。

本日は地域づくり団体全国協議会の岡崎会長、総務省の大村地域力創造審議官、地域活性化センターの川住常務理事、会場の多くの皆様、リモートで参加されておられます離島分科会の皆様、本当に多くの皆様のご出席のもと、全体会がこのように盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げたいと思います。

そして、多くの皆様方に、この長崎県に御来県をいただきましたことを心より歓迎を申し上げたいと思います。

昨日まで長崎の離島においては、5つの分科会、そして本土においては8つの分科会が開催されたということでしたけれども、皆様の議論の様子はいかがだったでしょうか。

長崎県は多くの離島、それから半島地域から成っている地理的状况でございます。

非常に各地域の個性が強い県で多様性に富んでいると思いますけれども、そうした各地域を皆様に訪れていただいて、分科会の中でさまざまな地域で取り組んでおられることについて、実際に肌で触れていただき議論を交わしていただいて、この地域交流会の長崎大会というものを過ごしておられたと思います。

ぜひ、長崎のそれぞれの魅力や個性を見いだしながら、地域づくりについても実際にその意義を感じていただいて、皆様の今後の取り組みにお役に立てていただければ大変うれしく存じます。

皆様、日頃から「地域を元気にしたい」という強い思いで日々活動されておられる方々ばかりだと存じます。

長崎大会が今後の皆様の各地域における取り組みに向けて、地域資源の生かし方、あるいは担い手の確保育成など難しい課題の解決の一助になることを心から願っております。

今回の長崎での大会は、「開国の地 長崎 ～地域づくりの夜明けは長崎から～」というキャッチフレーズで行われました。

歴史的には江戸時代、特に幕末ですけれども、新しい時代の始まりを日本の中でこの西の端にある長崎が感じ取って、それを全国に伝えながら、まさに時代の夜明けを体現する土地でありました。

気持ちとしては、そして時代を切り開く気概としては「長崎は全国の夜明けなのだ」という気持ちで、これからも取り組んでまいりたいと思いますし、そうした思いを皆様と共有できるこの3日間になったのであれば、これに勝る喜びはございません。

本大会を通じて得られた交流が末永く続きますことを祈念いたしますとともに、本日ご参加の皆様方のますますの御活躍とご健勝を心からお祈りいたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

## 全体会

### 来賓あいさつ

総務省地域力創造審議官  
大村 慎一



総務省地域力創造審議官の大村と申します。

本日、第38回地域づくり全国研修交流会長崎大会が開催されるに当たりまして一言御挨拶を申し上げたいと思います。

未曾有のコロナ禍を乗り越えて、3年ぶりに全国から200人を超える多くの方々のご参加を得て、この開国の地長崎において、また長崎新幹線の開業に合わせて、このように盛大に全国研修交流会が開催されますことを心よりお喜びを申し上げます。

また、本日各離島からテレビ会議でご参加をいただきます皆様を含めて、全国で2500を超える地域づくり団体により、日ごろから地域づくりの取り組みに御尽力いただいておりますことに、厚く御礼を申し上げます。

さて、本交流会が郷土愛の醸成、県内外の地域づくりネットワークの強化・活性化を図って、若い世代とともに新しい地域づくりを目指す大会として、今回リアルとオンラインのハイブリッドで開催ができましたことを、総務省としても大変うれしく思っております。

昨日の分科会には、実際に私も対馬市における第9分科会に参加をさせていただきまして、対馬の自然と長く深い歴史に直接触れさせていただくとともに、地域づくりの取り組みについて地域づくり団体や地域おこし協力隊の皆様から直接学ばせていただきまして、豊富な地域資源の活用、そしてそれを生かすことのできる意欲のある人材の発掘と地域のつながりの重要性を再認識いたしました。

各地の分科会におきましても充実した研修が行われているものと感謝を申し上げます。

我々はまだ未曾有のコロナ禍の最中にあります。

そういった中で、地方への関心というものはむしろ高まっているところでございます。

例えば、我々総務省が毎年実施している移住相談に関する調査結果における令和3年度の自治体における移住相談受付件数はまだ集計中ですが、全国で三十数万件に及ぶ見込みとして過去最高となる予定です。

こうした大きな変化というものをチャンスと捉えて、この3日間の成果を今後の地域の取り組みに生かしていただくことが地域活性化のさらなる推進に大きく貢献するものと考えております。

私も総務省といたしましても、地域おこし協力隊について、長崎県でも昨年84人の隊員が活躍をされています。

地域の活性化と都市部から地方への人の流れをさらに

# 全体会

## 来賓あいさつ

(一財) 地域活性化センター  
常務理事  
川住 昌光



拡大するために大きく貢献する取り組みとして評価は高いですので、現在全国で約6000人いる現役隊員数を令和08年度までに1万人まで増やすことを新たな目標として掲げたところでございます。

また、地域の仕事を組み合わせて年間を通じた仕事を創出し、地域の担い手を確保する特定地域づくり事業協同組合について、現在全国でまだ62組合ですけれども、地域おこし協力隊員の卒業の受け皿としてはいろいろな創意工夫が考えられる仕組みですので、組合数の増加に向けて、さらに制度の推進を図ってまいりたいと考えております。

ほかにも、国の計画に合わせて本年をスタートアップ元年として、地域の融資と国の交付金等でローカルスタートアップ事業を支援するローカル10000プロジェクトの実施自治体数を今後5年間で倍増させるということも目標とするなど、そういった取り組みで地域の今ある資源と人材を生かす、我々としては内発的な地域の活性化のための事業をさまざま展開してまいりたいと考えております。

人口減少と東京圏への一極集中の是正に向けて取り組みを図り、地域をさらに元気にするために、総務省としても全力で取り組んでまいりたいと考えております。

最後に本大会の開催に当たりまして御尽力いただきました、岡崎会長、長崎実行委員会を初めとする地域づくりの団体の皆様、長崎県や県内市町村の関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、本大会の成功とご参加をいただいた。全ての皆様の御活躍を祈念して御挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

地域活性化センターの川住でございます。

私はこの6月から常務ということで着任をしておりますけれども、この地域づくり団体の全国協議会が初めて参加をさせていただきました。

私は昨日第4分科会に参加をさせていただき、大村市でいろんな体験・経験をさせていただきました。

鍛冶屋さんに伺ったり、地元の農園にお邪魔をしたり、コスモスの畑をつくって成功されている若い方々の活躍ぶりだとか、いろんな経験をさせていただきました。

特に感動しましたのは、若い方々がUターンをしたり、あるいは代々継いでおられる鍛冶屋さんを継がれる、こういう若い世代がどんどん育ってきていたり、戻ってきていらっしゃる。こういう大村市の今の状況が本当にうらやましいなと思った次第です。

これは何も自然とそうなったわけではなくて、やっぱり山口さんを初めとした大村市の皆さんが、環境をつくってこられたからこそ、若い人が戻ってこられて、仕事を不得生き生きと活躍されている証しではないかなど、私は本当に感動・感銘を受けて戻ってまいりました。

私ども地域活性化センターも今日もサポートをさせていただいておりますが、51名の各自治体から派遣をいただいて2年から3年、何をしているかということ、人づくりをしています。

そういう自治体の20代30代の若い職員が中心となり、人をお預かりしてネットワークを広げ、知見を広げて地元にお返し申し上げる、これが私どもの大きな使命でございます。

各分科会にご参加された皆様、行政の方、それから地域づくり団体の方々たくさんいらっしゃいます。

ぜひこれを持ち帰っていただいて、地域でどんどんネットワークを広げて、足りないところは他の地域のいろんなネットワークの助けを借り、今回の活動を契機に地域で活動していただければと思った次第でございます。

本当に山口実行委員長を初め、関係団体の皆様、本当に御苦労さまでございます。

これだけ盛大に3年ぶりに開かれたこと、本当に私ももうれしく思っております。

最後になりますけれども、ここにご列席の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございます。

# 第1分科会（長崎市）

## 「長崎さるく」による「まち活かし」「ひと活かし」

見るだけの観光から“まちの魅力を感じ取る”という新しい楽しみ方

### <開催概要>

第1分科会では、国指定史跡でもある「出島」を分科会の会場とし、第一部では、市民自らが企画し、長崎の魅力的な文化・歴史・自然・人などの良さを学び、見るだけの観光から“まちの魅力を感じ取る”という新しい楽しみ方として人気の「長崎さるく」を、実際に体験してもらいました。

第二部では、長崎で活躍する若者をゲストに招き「長崎の地域の魅力の活かし方」についてお話いただくとともに、人口減少と高齢化の進行による地域課題に対し、各地の地域づくり団体の取組みを、今後どのように繋げていくかについて議論しました。

コーディネート団体 NPO 法人 長崎コンプラドール



コーディネーター  
岡本さん



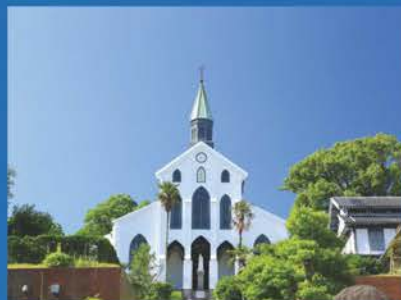
コーディネーター  
桐野さん



分科会案内動画

## 分科会スケジュール

- 9:20 集合（出島表門橋公園）
- 9:30 まちさるく体験
  - ①コース 出島 → 居留地周辺
  - ②コース 出島 → 眼鏡橋周辺
  - ③コース 出島 → 長崎駅周辺
- 12:00 昼食（水辺の森公園）
- 13:30 施設見学（国指定史跡 出島和蘭商館跡）
- 14:30 パネルディスカッション（旧出島内外倶楽部）
- 18:00 分科会交流会（ホテルニュータнда）
- 20:00 夜景さるく（鍋冠山展望公園→大浦展望公園→大浦天主堂）



### <参加者内訳(23名)>

青森県 1名、宮城県 1名、福島県 1名、東京都 1名、栃木県 1名、静岡県 2名、兵庫県 1名、  
島根県 5名、香川県 1名、熊本県 3名、宮崎県 1名、沖縄県 1名、長崎県 4名

## 分科会での主な意見等

- パネルディスカッションで若い人の声を聞けたので良かった。地域の子供が、自分の住んでいる所に興味を持ち、好きになることから良いまちづくりへと発展していくことが分かりました。若い人たちの目線やアイデアを十分に活かせる地域づくりが必要であることが分かりました。
- 都市部の地域づくりに関心があったので選びましたが、第1分科会で良かったと思います。観光資源、地域資源が豊かな長崎市が、真摯に新しいことに取り組み、まちづくりに取り組む姿に感銘を受けました。
- 地域づくりも高齢化し、どうすれば若い人を引き込めるかとか色々課題はありますが、事例発表やディスカッションなどをお話をお話をして少し前向きな答えが出そうです。

## 分科会を振り返って (コーディネーターより)

参加した団体の多くが、私たちと同じように、これまで取り組んできた地域づくり活動を、今後どのように次の世代に繋げながら進化させていくかということを考えていました。そのヒントとして、これからの地域づくり団体は、地域の課題解決に向け、次の世代の若者が取り組んでいる様々な活動を理解し、応援していくことが大きな役割になるのではないかと思います。

## 分科会での様子



## 第2分科会（長崎市 外海）

### 世界文化遺産を生かした地域づくり

命の原点である食を通して

#### <開催概要>

第2分科会では、美しい海岸線と夕陽、特色ある文化が自慢の外海地区にある世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産である「外海の出津集落」と「外海の大野集落」や、外海の人々の貧しい暮らしを救ったフランス出身のド・口神父が明治15年に建造した「出津教会堂」のほか、「遠藤周作文学館」など豊かな文化資源を実際に体感いただき、地域活性化グループ「フェルム・ド・外海」が行っている国際交流、スローフード活動、潜伏時代に宣教師が伝えたユニークな料理提供など、この地の特異な歴史と食文化を通じ、命の原点である「食を通じたまちづくり」について探求しました。



コーディネーター  
日宇さん

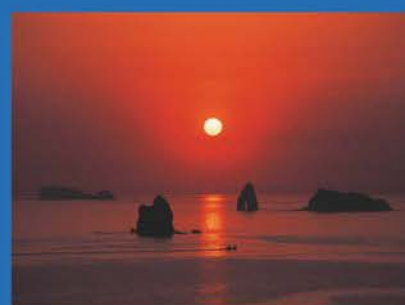


分科会案内動画

コーディネート団体 フェルム・ド・外海

#### 分科会スケジュール

- 10:00 地域見学  
遠藤周作文学館  
外海歴史民俗資料館  
出津教会堂  
旧出津救助院
- 12:00 昼食（旧出津救助院）
- 13:00 体験「キッチンリース作り」
- 15:00 分科会（外海公民館）  
【第1部】基調講演  
①原点のゆうこうとスローフード  
②フェルム・ド・外海の料理の魅力  
③味わい教育の観点から  
【第2部】  
①フェルム・ド・外海の活動紹介  
②リレートーク、質疑応答 ほか
- 18:00 交流会（ホテル外海イン）  
「命をつなぐ原点の食事」



#### <参加者内訳(10名)>

青森県 1名、島根県 2名、熊本県 1名、宮崎県 1名、沖縄県 1名、長崎県 4名

## 分科会での主な意見等

- 素朴で等身大。この地域で暮らす人たちの誇りのようなものを強く感じた。ただ、タイムテーブルなどの事前情報が少ないまま参加することになったので、コンテンツの価値を理解することが難しかった。
- 隠れキリシタンの歴史が深く知れて良かった。スローフードの取り組みは持ち帰って実践していきたいと思いました。
- 地域の担い手の高齢化が進んでいるが、人を信じて前に進んでいくことで新たな担い手が見つかると思った。

## 分科会を振り返って（コーディネーターより）

外海地区のユニークな歴史、文化、景観、そして伝統的な食に、北は青森、南は沖縄から参加された方々に、触れ、味わっていただいたことは、私どもにとって大きな喜びでした。

これからは若い世代との連携を強めながら活動の幅を広げ、世界文化遺産の地であるという大きな恵みを感じながら、さらに前進していきたいと考えているところです。

## 分科会での様子



## 第3分科会（諫早市 飯盛）

### 「あんたが主役」の町づくり

ここにしかない豊かなふるさとづくりを目指して

#### <開催概要>

第3分科会では、ありのままの「ここ」を大切に思う仲間が集う「地域演劇で町づくり」の活動を中心に、「あんたが主役」の方言丸出しの田舎芝居を体験いただくほか、ワンコインで買い物代行や子供の見守りなどを支援する「地域共生助け合い隊」の活動も紹介。お泊りは、お寺さんでよもやま話。ここにしかない豊かなふるさとづくりを目指した「あんたが主役」の町づくりについて体感していただきました。

コーディネート団体 「地域演劇で町づくり」実行委員会



コーディネーター  
藤本さん



分科会案内動画

### 分科会スケジュール

- 10:00 諫早湾干拓道路
- 11:00 菓秀苑森長おこし工場見学
- 12:00 昼食 うなぎ割烹 北御門
- 13:30 分科会（飯盛ふれあい会館）  
「あんたが主役の町づくり」  
寸劇の役者体験  
地域共生助け合い隊の活動紹介
- 17:00 ふれあい入浴（いいもり月の丘温泉）
- 18:00 交流会（美好屋）
- 20:30 宿泊先：西明寺で夜なべ談議
  - ・民話紙芝居
  - ・窯のふたかぶせ
  - ・そば打ち体験



#### <参加者内訳(13名)>

島根県 4名、香川県 1名、沖縄県 2名、長崎県 6名

## 分科会での主な意見等

- 飯盛への印象が大きく変わるくらい、様々な経験をさせていただきました。
- なによりも地域の方々のおもてなしが1番嬉しかったです。
- 演劇を通じてたくさんの方が関わり、それぞれが役割を果たしながら町づくりを進めている。  
(楽しいことばかりではないと思いますが) 参加者の皆さんが笑顔で楽しみながら取り組んでいるのが印象的でした。演劇をきっかけに人が繋がり、繋がりが町をつくり盛り上げているのだなと感じました。

## 分科会を振り返って (コーディネーターより)

コロナ禍での長崎大会でしたが、参加者は分科会場に着くやいなや、百姓着とかつらと草鞋。「あれよっ」と役柄に変身。臆する事もなく仲間と意気投合し、本番の台詞の言い回しに笑いを誘う役者ぶりは見事なものでした。

地域の方々の心がこもったご支援やご協力が有難く活動の絆に感謝です。そこにあるものを活かし、ないものを創り出す活動は、仲間たちとの「邂逅」が心を動かし、情熱や信念を引き出す原動力となり地域づくりとなるのでしょうか。

おつかれさまでした。

## 分科会での様子



## 第4分科会（大村市）

### 素通りのまちからストーリーの町へ

年中夢求の地域づくり

#### <開催概要>

第4分科会では、今年9月に新幹線が開通し、県下で唯一人口が増加し注目を浴びている大村市を舞台に、農業の六次産業化とグリーンツーリズムによる地域活性化への取組について実践者との交流や意見交換を行ったほか、各種体験メニューなどについても実際体験していただくなど、素通りのまちからストーリーの町へ・年中夢求の地域づくりについて、先刻の幅広い方々と追求しました。



コーディネート団体 【おおむら夢ファームシュシュ】



コーディネーター  
山口さん



分科会案内動画

### 分科会スケジュール

- 9:10 ガラスの砂浜見学
- 10:00 沖田農園（バナナ・パイナップル）見学
- 10:40 田中鎌工業見学
- 11:20 大又農園 野の実の取組  
※2グループに分かれて見学
- 12:10 昼食（シュシュ ランチバイキング）
- 13:00 シュシュの取組  
グリーンツーリズムの取組  
観光農業・民泊
- 14:30 ウィンナーづくり・  
ピザづくり体験
- 16:30 意見交換会
- 18:00 交流会
- 20:00 夜なべ談義



#### <参加者内訳(17名)>

青森県 1名、東京都 2名、埼玉県 1名、島根県 6名、香川県 1名、熊本県 3名、沖縄県 1名、長崎県 2名

## 分科会での主な意見等

- 訪問した先が新しいことにチャレンジされている精神がとてもよく分かった。帰って伝えていきたいと思った。六次産業化の取り組みは島根県より進んだ取り組みで、生産者や働く場の確保など、地域産業振興につながっている重要な取り組みだなと感じました。
- 自分たちで、できることからやってみる、新しいことにチャレンジする精神を感じて、それが成功のポイントと思った。
- できることをすることで各々の役割を果たす、活動のビジョンが明確であることが必要、大事、お互いが WIN-WIN メリットのある関係性を築く（独り勝ちではないこと）、ない事も楽しく、まずやってみる姿勢が大事、何よりユーモア、笑う事などたくさんの学びがありました。

## 分科会を振り返って（コーディネーターより）

六次産業化やグリーンツーリズムを通して地域活性化に取り組んでいる現場に足を運んで、食育体験など感動体験して頂き、活性化に繋げている事例を参考に活発な意見交換ができたのではないかと思います。分科会に参加いただいた方々の今後の活動に少しでも参考にして頂ければ幸いです。また皆さんの活動の現場に勉強に行かせて頂きたいと思います。

## 分科会での様子



## 第5分科会（西海市）

### 大村湾に浮かぶ無人島・田島を活用した地域コミュニティづくり

#### <開催概要>

第5分科会では、五島灘、佐世保湾、大村湾と3方を海に囲まれた西海市。今回は、大村湾に浮かぶ無人島・田島を活用した地域コミュニティづくりをテーマに、企業と地域が連携した中山・亀浦地区をはじめとし、まち歩きイベント「雪浦ウィーク」を開催している雪浦地区や、動物と身近に触れあえる長崎バイオパークを巡り、西海市の地域づくりや活性化の取組みを視察した後、無人島田島で潮風を聞きながら、囲炉裏を囲み、星空を仰ぎ、寝袋談義で大いに語り合いました。



コーディネート団体 中山田舎元気塾&無人島田島



コーディネーター  
福喜さん



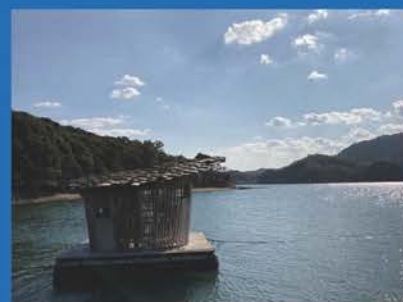
コーディネーター  
森さん      ガイド  
片山さん



分科会案内動画

#### 分科会スケジュール

- 9:30 雪浦：地域づくり研修（森田屋）
- 11:30 長崎バイオパーク 見学
- 12:20 田島 BASE 到着・渡船
- 14:05 オリエンテーション・テント張り
- 14:50 無人島散策・薪拾い・魚釣り等
- 15:30 入浴（湯游館）
- 16:45 渡船・田島 BASE
- 17:00 地域活動紹介
- 18:30 交流会・キャンプファイヤー
- 20:30 夜なべ談義



#### <参加者内訳(13名)>

和歌山県 1名、東京都 1名、熊本県 2名、宮崎県 3名、長崎県 6名

## 分科会での主な意見等

- 補助金ありきではなく、やる気のある団体、活動であれば独立して活動ができているし、後から行政のフォローもついてくるのだと感じた。移住者、チャレンジする人を受け入れる際のつなぎ役の存在の重要性を再確認した。
- 地域の巻き込み方、パッション、独創性と積極性。視点の切り替え方を学んだ
- コーディネーターの方と地域の方々が一緒に取り組む体制（関係性）づくりができていて、無人島という地域資源を上手に活用していく仕組みづくりが大変参考になりました。

## 分科会を振り返って（コーディネーターより）

天候にも恵まれ、満天の星空の下で焚火を囲みながらの食事会や意見交換会。地元料理を褒めていただき、地域の方と熱い議論や交流を深めてもらうなど、大村湾に浮かぶ「無人島 田島」が、輝く一日となりました。これからもこの感動を忘れずに原体験やアウトドアのすばらしさを伝えられる宝の島として、地域と企業が連携し地域活性化に結び付けて行きたいと思います。

## 分科会での様子



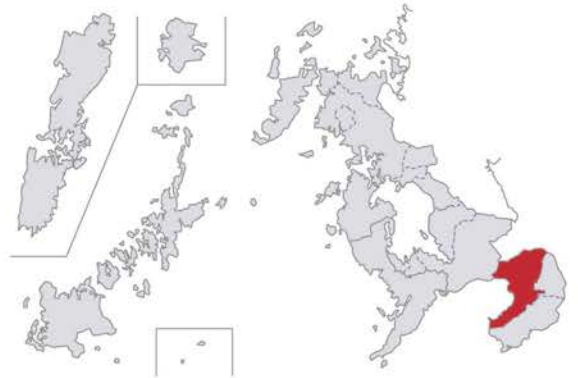
## 第6分科会（雲仙市 千々石）

### 生き残るは、スモール農業のみち

千々石こだわり倶楽部

#### <開催概要>

第6分科会では、雲仙普賢岳の噴火活動と豊かな水流が織り成す起伏に富んだ形状をもつ雲仙市の急斜面を切り開き、石を積み上げ続けた石垣棚田など、先人たちの営みとこの地で生きるこれからの農業の在り方を考えます。この地には、野菜の花を咲かせ種を採り、その種を蒔くという昔ながらのやり方が残っており、大規模農業という効率を重視した中では決して生きていくことができない雲仙に根付いた在来種の野菜など、中山間地のスモール農業の様々な取り組みについて紹介するとともに意見交換を交わしました。



コーディネーター  
林田さん



コーディネーター  
田中さん



分科会案内動画

コーディネート団体 千々石こだわり倶楽部

#### 分科会スケジュール

- 10:00 オーガニック直売所「タネト」見学
- 11:00 全国棚田百選「岳棚田」見学  
雲仙地獄散策  
昼食（お弁当）  
小浜温泉「足湯」体験
- 15:00 パネルディスカッション（雲仙市役所小浜支所）
- 18:00 交流会（Lion-J）  
夜なべ談義



#### <参加者内訳(14名)>

東京都 2名、島根県 1名、香川県 2名、熊本県 6名、長崎県 3名

## 分科会での主な意見等

- 行政職員は、何度も現場にでて現状を確認すべきで、今回の研修会のように人材と人材をつなぐ機会をもっと作った方がよいと感じた。分科会では、次世代の人材を育成するための補助金をもっとあればという意見があった。自分の代だけではなく、次世代までの長いスパンで高い目標をもつ人がいる地域は素晴らしいと感じた。
- 若手農業者の意見が聞けて良かった。
- 夜なべ談義で意見交換できて今後につながった。

## 分科会を振り返って（コーディネーターより）

平成生まれの若者のパワーと情熱を地域に

13分科会のなかで唯一「農業」をテーマとした。それもスモール農業。生産性・収益性の悪いオーガニック、種どり伝統野菜に取り組む若手新規農業者を紹介した。全国各地からやってくる彼らの考え方、取り組み、情熱を参加者皆さんに届けたかった。この取り組みが雲仙という地域だけでなく全国の中山間地域で広がることを願いつつ、ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。

## 分科会での様子



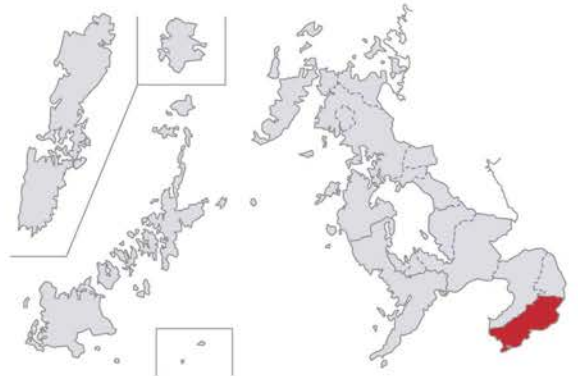
# 第7分科会（南島原市）

## 地域の宝でまちづくり

「ひと」と歴史の南島原

### <開催概要>

第7分科会では、農林漁業体験民泊で国内外から年間1万人以上が宿泊するここ南島原市において、世界遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産である「原城跡」があり、地元ガイドが案内するガイドツアー「世界遺産コース」に参加、その他南島原の特産であるそうめんの引き延ばしの体験や日本で数少ない伝統製法“はねぎ搾り”を用いた日本酒の酒蔵を訪ね、農林漁業体験民泊と観光ガイドを通じた「ひと」による地域づくりについて一緒に考えました。



コーディネーター  
楠田さん



分科会案内動画

コーディネート団体 南島原ひまわり村

## 分科会スケジュール

- 10:00 有馬キリシタン遺産記念館
- 10:45 原城の聖マリア観音見学  
原城跡
- 12:00 昼食（原城温泉 真砂）
- 13:10 そうめん大引き体験
- 14:25 酒造見学（吉田屋）
- 15:30 分科会（原城温泉 真砂）
- 17:00 温泉
- 18:00 交流会（原城温泉 真砂）
- 20:30 民泊へ移動



### <参加者内訳(14名)>

東京都 1名、群馬県 1名、兵庫県 5名、島根県 2名、熊本県 2名、長崎県 3名

## 分科会での主な意見等

- コーディネーターの楠田さんはじめ頑張っている方々に会うことができ、元気をもらいました。地域資源はやっぱり「人」だと感じた。民泊でのおもてなし朝食がおいしかったこと感謝です。
- 観光協会の立ち上げと運営、今後の課題 行政の役割、関わりが重要であるが、自力を目指すうえで組織の人材育成、財源確保は大きな課題である。また、民泊組織の立ち上げ、運営主体的な取組みに感激しました。
- ストーリーが素晴らしい!後世にのこせるものだ。

## 分科会を振り返って (コーディネーターより)

3年越しの大会が無事に開催出来たことを大変嬉しく、感慨深いものでありました。

延期された事により、不安材料も沢山ありましたが、市民団体が新たに取り組んでいる、地域の為の「原城の聖マリア観音」のプロジェクトを観てもらった事ができた事は、タイミング的には最高の時期でもありました。

いろいろな地域づくりも、10年ごとに変化、改革し、時代のニーズに合わせる事が大事だと参加者の方々の助言も頂き、持続する事の大変さを改めて、感じました。皆さんこれからも頑張ってください。

## 分科会での様子



## 第8分科会（波佐見町）

### クラフトツーリズムにおける伝統産業の展開

伝統産業の展開

#### <開催概要>

第8分科会では、400年前より陶磁器を作り続けるやきもの町「波佐見町」において、ものづくりの町の産業を活かした観光とクラフトツーリズムを紹介。400年やきものを作り続けた伝統や、ものづく切の町の文化や歴史を感じながら、波佐見でしか味わえない魅力を体感していただき、世界最大の登り窯跡があるやきものづくりの里「中尾山」や棚田100選の「鬼本の棚田」など窯業と農業が背中合わせで伝統を守り続ける町を体感いただきました。



コーディネート団体

NPO法人グリーンクラフトツーリズム研究会



コーディネーター  
豊原さん



コーディネーター  
小林さん



分科会案内動画

#### 分科会スケジュール

- 10:30 陶芸の里 中尾山  
400年の歴史の陶芸の里を散策
- 12:00 文化の陶 四季舎 昼食
- 13:00 陶芸の館  
サステナブルイベント HASAMI no WA  
あちこち陶器まつり
- 15:00 交流会  
基調講演「クラフトツーリズムによるまちづくり」  
パネルディスカッション
- 18:00 交流会（西の原833スタジオ）



#### <参加者内訳(15名)>

埼玉県 1名、石川県 1名、栃木県 1名、兵庫県 2名、島根県 3名、香川県 1名、熊本県 4名、長崎県 2名

## 分科会での主な意見等

- 波佐見町のキーパーソンと思われる方のフットワークの軽さ、実行力がすごいなと感じました。お食事が美味しかったです！
- 補助金に頼らずまちづくりを進めておられ、それが自由度の高い取り組みに繋がっていると思いました。また、行政が地域（社会）活性化の視点で話しをするのに対し、地域側は地域（経済）活性化の視点で話しをするので話しが噛み合わないというお話しがとても印象に残りました。
- 何より町に元気があった。町で活動されている方々の発表も力強く波に乗っている事が感じ取れた

## 分科会を振り返って（コーディネーターより）

波佐見町の分科会においては特別に計画せずいつもの町の様子を見てもらう内容にしました。400年の歴史の陶芸の里「中尾山」散策は普段の地元の対応、いつもの波佐見の地元食を提供したり、開催中の陶器まつりに案内したり、毎月朝六時より開催している参加者全員が自由に自分の意見を発言する朝飯会を体験してもらい、いつもの町の実情を紹介した分科会でした。参加者の皆さんからは地域が一体となって取り組む地域性に驚かれたのではないかと思います。

## 分科会での様子



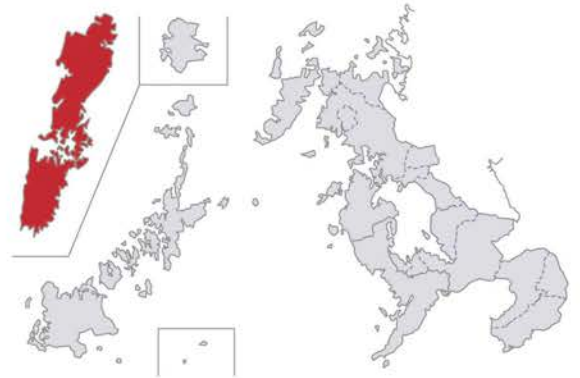
## 第9分科会（対馬市）

### 見せたい対馬がここにある

古代からの架け橋、国境の島「対馬」自然・歴史の宝庫

#### <開催概要>

第9分科会では、対馬グリーン・ツーリズム協会事務局長の川口幹子（かわぐち もとこ：元対馬島おこし協働隊 OG）さんの講演を聞いた後、地元出身者、他県出身者等地域づくり関係諸団体との交流・意見交換を実施。徒歩で激動の対馬を旅する厳原城下町歩きのほか、烏帽子岳など対馬の歴史文化自然を体感し、交流会や農泊（民泊）で全国の方々とふれあい交流を促進しました。



コーディネート団体 NPO法人 森里海再生協議会



コーディネーター  
松村さん



分科会案内動画

### 分科会スケジュール

11月5日（土）

12:55 厳原港到着

13:10 昼食「対馬あなご定食」

13:50 「激動の対馬を旅する厳原城下町歩き」

観光情報館ふれあい処つしま、金石城跡、万松院、対馬博物館ほか

15:20 研修会（対馬博物館）

講演、活動事例発表、意見交換

16:50 烏帽子岳見学

18:40 交流会「海小屋吉栄」

海鮮バーベキュー

夜なべ談義



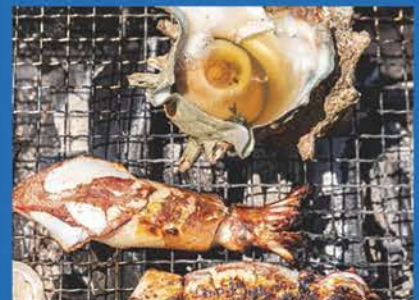
11月6日（日）

9:00 河内酒造見学

10:00 全体会（対馬博物館）

12:20 昼食 対馬のマグロづくし寿司「トロの華寿司」

13:00 厳原港フェリーターミナル出発



#### <参加者内訳(18名)>

東京都 3名、兵庫県 1名、島根県 4名、福岡県 1名、熊本県 1名、宮崎県 5名、長崎県 3名

## 分科会での主な意見等

- 地元出身、他県出身に分けた発表でわかりやすく、大変参加になりました。既に成功されていて私たちの町の先を行かれている様に思いました。お悩みのレベルが次の世代という事で、そういう事もあるほどなあと感じながらうかがいました。こうして交流ができてお話させて頂いた事が何より良かったと思います。
- 地元出身者、移住者、市役所が、相互理解しつつ、それぞれの特性を活かした地域づくりを進めている点が参考になりました。
- 初めて、国境の島、対馬を訪れて、感慨深いものがありました。歴史、文化、自然、風土なども理解できるプログラムであり、短い時間で、島を楽しめた。

## 分科会を振り返って (コーディネーターより)

短い時間でしたが対馬の観光名所を周り歴史に触れてもらい満足されていたようで嬉しかった。研修会では島内各地域づくり団体による活動事例発表会を行ない内容の濃い事例発表でした。交流会では対馬の牡蠣とサザエを堪能してもらい美味しいと声をいただいた。参加の皆さんには忙しい思いをさせてしまって大変申し訳なかったと反省しています。また機会があったら対馬に来られて、ゆっくりと対馬観光を楽しんで下さい。待ってます。

## 分科会での様子



## 第10分科会（壱岐市）

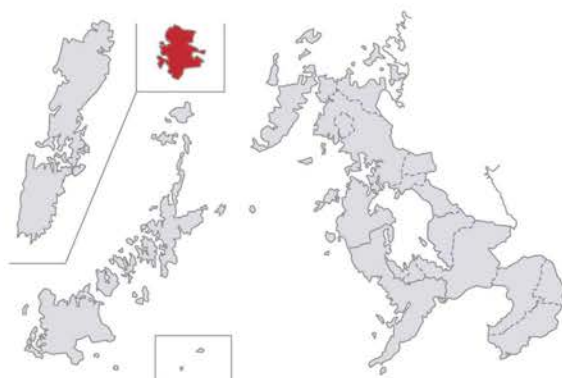
### 歴史と自然と神々の島に学ぶ

地域づくり体験

#### <開催概要>

第10分科会では、壱岐の島の土台石「堆積岩」が造る断崖絶壁の無人島「辰の島」、漁協婦人部による漁師飯、壱岐オリーブ園のほか、日本神道発祥神社や800年の歴史を持つ「壱岐神楽」長崎県伝統工芸品「壱州鬼凧」の絵付け体験、鬼凧飛ばし体験など、壱岐の歴史と自然と神々の島を体感していただき、地域資源を生かした地域づくりについて意見交換を実施しました。

コーディネート団体 壱岐・島おこし応援隊「チーム防人」



コーディネーター  
中山さん



分科会案内動画

#### 分科会スケジュール

11月5日（土）

- 12:05 印通寺港到着  
昼食（漁協婦人部による漁師飯）
- 13:30 無人島辰の島クルーズ  
壱岐オリーブ園研修視察  
岳の辻  
猿岩、黒崎砲台跡見学
- 18:30 交流会（壱岐島荘）

11月6日（日）

- 8:30 壱岐神楽見学（住吉神社）
- 9:30 一支国博物館見学
- 10:00 全体会  
壱州鬼凧絵付け体験
- 12:00 昼食（壱岐牛ハンバーグ弁当）  
左京鼻散策  
小島神社
- 14:25 芦辺港発（博多港解散）



#### <参加者内訳(23名)>

東京都 1名、石川県 1名、兵庫県 2名、島根県 5名、岡山県 2名、香川県 1名、福岡県 1名、  
宮崎県 5名、沖縄県 1名、長崎県 4名

## 分科会での主な意見等

- 女性の方が積極的にいきいきと地域づくりに取り組んでいる姿が印象的だった
- コロナで2年延期、大変だったと思います。が、その間に日程・案内・食事・歓迎など様々な準備・企画を「練る」時間となり、結果、私たちの驚き、喜び、感動を増幅させる「おもてなし」になったと思いました。「完璧」でした。
- 地域の強みや歴史を活かした地域づくりが活発でチーム防人のような団体があることがかなり、羨ましかったです。吉岐島をかなり知れるきっかけになったので、色んな面で参考になりました。

## 分科会を振り返って (コーディネーターより)

私共吉岐グループが企画いたしました第10分科会・吉岐に参加頂き、まことにありがとうございました。13分科会中、最多の参加者でスタッフ一同、緊張しておりましたが何とか無事にお迎えできました事は皆様方のご理解とご支援によるものと、心から感謝いたしております。これを縁に皆様方との交流を深め、情報交換などお互いの地域づくりのお役に立てればと思っております。また、お逢いしましょう！

## 分科会での様子



# 第11分科会（五島市）

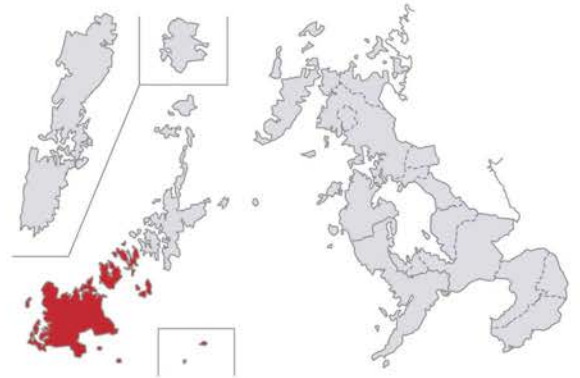
## ジオパークで故郷を再発見

民間活動が行政と協働で地域づくり

### <開催概要>

第11分科会では、五島市を舞台に、五島列島の景勝地、自然、生活・文化などをジオ的視点で見直すと、新たな再発見に出会えます。地元の農産物はなぜとれ、その景観はなぜそうなったか、この祭りはなぜ生まれたか、など自分たちの地域を知る知的欲求から生まれた活動が故郷への愛を育みなど、ジオパークを活かした地域づくりについて探求しました。

コーディネーター 五島地域づくり応援団



コーディネーター  
網本さん



分科会案内動画

## 分科会スケジュール

11月5日（土）

- 9:20 福江港ターミナル到着
- 9:40 島内見学  
日本遺産「明星院」  
魚津ヶ崎  
水ノ浦教会  
白石ともづな石
- 12:30 昼食（遣唐使ふるさと館）  
海水浴場百選「高浜海水浴場」

ほか

- 17:30 分科会
- 18:00 交流会  
夜なべ談義

11月6日（日）

- 8:00 宿泊先出発  
漁師めし、町歩き
- 10:00 全体会（リモート）参加
- 13:10 福江港発（長崎港着解散）



### <参加者内訳(13名)>

東京都 1名、島根県 3名、香川県 2名、熊本県 1名、宮崎県 1名、長崎県 5名

## 分科会での主な意見等

- さが島の船が欠航したのは大変残念でしたが、これは再度訪問するようにとの「お導き」だったのかなと思いました。元気うちに再度訪問させて頂きたい!!個人的には再生可能エネルギーの取り組みが見られて良かったです。
- ジオパークの取り組み、現在在住地域で活かしたい
- 地域の魅力を歴史、風土、文化を深く掘り下げて考える事は地域文化を理解し魅力を見つけることを知った

## 分科会を振り返って (コーディネーターより)

五島市には、国立公園、世界遺産、日本遺産があり、今回日本自然遺産（ジオパーク）に認定された五島市、又現在 NHK 朝ドラ「舞い上がれ」で紹介されている五島市の二次離島である嵯峨ノ島のジオパークにシケのため渡ることが出来ず、五島一周にコースに変更されましたが、五島市内のジオパークを見ることが出来たのではないかと思います。

五島市はこのような自然財産と観光資源を生かし「地域活性化」を目指して取り組んでいます。今回参加者の意見交換を通してお互いの「地域づくり」に少しでも貢献し、参加者とのつながりを今後に生かしていければと思います。

## 分科会での様子



## 第12分科会（五島市・新上五島町）

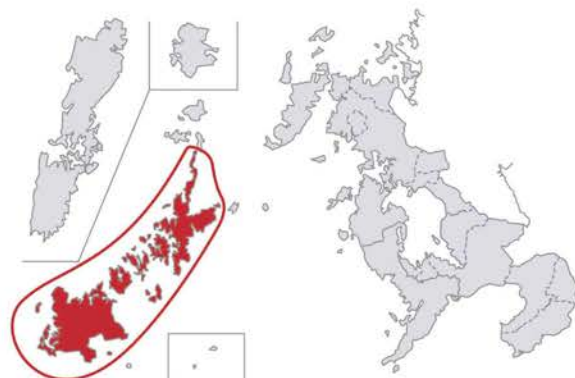
### 世界文化遺産の五島列島をめぐる

海辺に佇む教会—『潜伏キリシタンへ思いを馳せて!』

#### <開催概要>

第12分科会では、長崎県の西の海上に浮かぶ五島列島をステージに、明治の初期、激しいキリシタン迫害（五島崩れ）があり、残酷な拷問で多くのキリシタンの涙と血が流され、42名の尊い命が失われたことや、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の12の構成資産のうち4つが存在する五島列島の頭ヶ島の集落・奈留島の江上集落・久賀島の集落を中心に他の遺跡・教会などを巡り、潜伏キリシタンへの思いを馳せた活動を皆さまと共有しました。

コーディネート団体 NPO法人 アクロス五島



コーディネーター  
山口さん



分科会案内動画

#### 分科会スケジュール

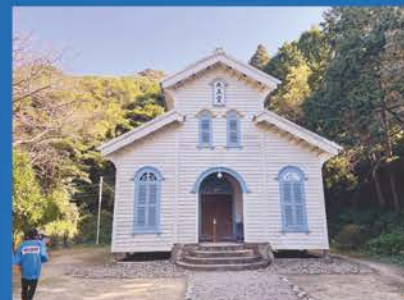
11月5日（土）

- 9:38 有川港到着
- 10:10 世界文化遺産「頭ヶ島集落」見学  
蛤浜ビーチ
- 11:40 昼食（有川 五島うどん）  
世界文化遺産めぐり
  - ・キリシタン洞窟
  - ・江上集落（江上天主堂）
  - ・旧五輪教会
  - ・堂崎天主堂
  - ・観音平 ほか
- 18:00 交流会（上乃家）  
夜なべ談義



11月6日（日）

- 8:00 宿泊所出発  
漁師めし、町歩き
- 10:00 全体会（リモート）参加
- 13:10 福江港発（長崎港着解散）



#### <参加者内訳(14名)>

東京都 3名、福井 2名、島根県 4名、宮崎県 2名、長崎県 3名

## 分科会での主な意見等

- ユーモアあふれるコーディネーターのガイドがすばらしく、潜伏キリシタン、隠れキリシタンの文化について知ることができた。飽きさせない工夫、スタッフの対応など満足度の高い内容でした。
- 若い方々の活動範囲は広くこれから益々ご活躍なさると思います。それぞれの地域で誇りを持っておられることを実感
- はじめての参加でした開催地について余りに知識がなかったことに自分でショックを受け、良い刺激をいっぱいもらいました。離島文化・地域にもっと関心を持って行きたい。

## 分科会を振り返って（コーディネーターより）

「世界文化遺産の五島列島をめぐる」生命よりも大切な祈りのためにやってきたキリシタンの生活が垣間見ることができたと思います。

5つの島を巡るため船を使ったり、バスを使ったりと移動時間が多いハードなコースでした。

移動時間をどう楽しんでもらえるか、何かしら感じていただけるかが今回の課題でした。

参加者の皆様から感じたことは、「人の生き方」に興味があると思いました。美しい自然と祈りの島を自慢できました。

## 分科会での様子



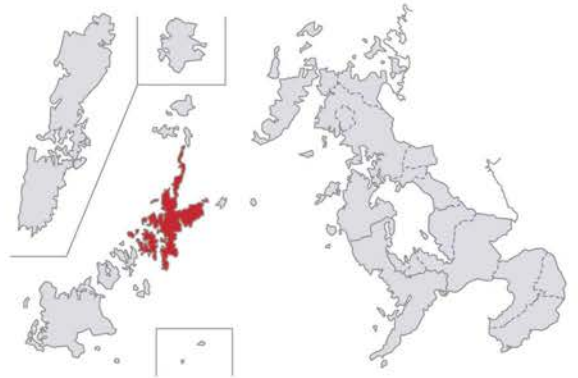
## 第13分科会（新上五島町）

### “何もないこの島” がみんなの宝もの

～この町が好きだから、この町を思い、この町で夢さがし～

#### <開催概要>

「自分たちの住むまちを、もっと元気なまちにしたい！ 小さな島の小さな思いは、みんなと力を合わせることで形にできる」をモットーに、活動を続ける地域の若者やまちづくりを進める島人たちと交流を深めていただきました。初日は、35年に渡りさまざまなイベントを繰り広げるまちづくりグループとともに瀬渡船を使って、無人島やキリシタン洞窟を体験。地域女性部の手づくり島ランチを昼食に。分科会では、生きる海に遊びのスポットを創り出したターンの女性、オリジナル島旅を演出する島の案内人など、島で活躍しているの方々による事例発表。夜なべ談義では熱い意見交換が行われました。二日目は、漁協のセリを見学後、漁師飯を朝食に。その後、教会で本物のミサ体験。全体会にリモートで参加しました。



コーディネーター  
青山さん



サブコーディネーター 分科会案内動画  
道津さん



コーディネート団体 上五島ふるさとガイドの会

#### 分科会スケジュール

11月5日（土）

- 9:50 奈良尾港へ到着
- 10:05 桐教会
- 10:30 無人島体験  
カズラ島、キリシタン洞窟、片潮瀬戸
- 12:00 昼食（若松地区女性部による島ランチ）
- 13:15 中ノ浦教会
- 14:10 旧鯛ノ浦教会
- 14:45 蛤浜ビーチ
- 15:30 分科会（石油備蓄記念会館）
- 18:00 交流会（はまぐりデッキ）
- 20:00 夜なべ談義



11月6日（日）

- 7:30 上五島町漁協の朝市でセリを見学
- 8:00 朝食（漁協女性部による漁師飯）
- 9:00 大曾教会でミサ体験
- 10:00 全体会にリモート参加
- 12:00 昼食（五島うどんの里）
- 13:30 鯛ノ浦港から出島



#### <参加者内訳(13名)>

東京都 1名、兵庫県 1名、広島県 1名、島根県 4名、長崎県 6名

## 分科会での主な意見等

- 新上五島町の町民と行政職員が一体となって取り組みを行なっている姿が素晴らしく感じた
- 久しぶりに生で様々なひとと交流できたことで、上五島の皆様の温かさに触れることができ、楽しかった。帰るのが寂しいです。
- おもてなしの心を随所に感じられる分科会であった。また、上五島の地域づくり団体の地元愛、地域愛、共に活動する人への想いを感じられた。成果より過程、プロセスを共に共有できることが大切だと思った。
- 地域の手ざわり感のある挑戦や活動を知ることができた

## 分科会を振り返って（コーディネーターより）

私たちの第13分科会では、「何もないこの島」がみんなの宝もの」をテーマに取り組みました。何より大切なものは「人」であり、大切なものは目には見えない。心で見ないと見えないということです。そして、「大切なもの、大切なことは、全部この島にある」ということに気づかされました。大会によって、地元の魅力の再発見とともに、自分たちの「地域力」「ふるさと愛」を再認識することができました。次回の島根大会でお会いしましょう。

## 分科会での様子



## 全体会トークセッション



登壇者（左から）

地域づくり団体全国協議会会長 岡崎 昌之 様  
兵庫大会実行委員長 宇高 昌利 様

長崎大会実行委員長 山口 成美  
島根大会実行委員長 細田 浩之 様

### 岡崎会長

最初に先程の13分科会の報告をお聞きになって感じることをお話いただき、その後これからの地域づくりに何を期待するかについてご発言をお願いいたします。

### 山口 成美 長崎大会実行委員長

簡潔にお話をさせていただくと、先程ビデオを見ていただいて、おわかりのとおり、自分の分科会が一番良かったって思っちゃったでしょうけども、みんな13分科会いきたかったなっていうふうな思いをされたのは、私だけではなかったのではないかなと思います。

そういう中で、私が第4分科会を主催させていただいて思ったのは、それぞれの方がいろいろな地域づくりで悩みがあると思います。行政で考えると、「前例がないから新しいことなかなかできない、予算が・・・」となりますけれども、私どもの地域では「前例がないから・ライバルがないから新たなチャレンジをするんだ」そういったことが、恐らく今日見ていた

だいて感じていただけたと思います。

「これが長崎でできたのだから、自分の地域にもこれすごくヒントになるよね」ということを明日から実行していただけるようになると、地域が元気になるのではないかなというふうに思ったところでございます。

ありがとうございました。



### 宇高 昌利 兵庫大会実行委員長

前回の兵庫大会からもう3年になるのですが、この3年間待ちながら「長崎ずるいな 3年の間にいろんなことを経験しているじゃない」と正直思ったものです。

もちろん、その中には水害等で大事なこともありました。しかし逆に西九州新幹線が通

り、「舞い上がれ！（NHK連続テレビ小説）」が話題になったり、本当に何かことがあれば、長崎に注目してしまうようなこの3年間でした。

それでいうと、逆に次回の島根の方が1年しかなく準備が大変だなと思いますので、ぜひ頑張ってください。よろしくお願いします。



#### 細田 浩之 島根大会実行委員長

最初に岡崎会長からもハードルが上がったなというふうにおっしゃられ、兵庫県の委員長さんからも非常に期待をされ、非常にプレッシャーも感じながらも我々ができることをしっかりとやって、おもてなしをしていきたいなと思っております。

長崎県の方々本当にお疲れさまでした。

離島も含め13分科会と非常にたくさんの分科会をやっていたらしゃったというところ、私どもも島根県にも離島もございますし、非常に参考になりましたし、どの地域においても皆さんが地域のことを愛し、そしてそれを発信していこうという姿は非常に参考になったと思います。

私たちも、それを参考にしながら、また次の地域づくりの方に生かしていきたいと思えました。

#### 岡崎会長

有難うございました。まだコロナ・パンデミックの状況はなかなか元に戻りそうにありません。しかし地域づくりにかける私どものパワーや信念は、それに打ち勝って次の段階を迎えようとしています。今回、13分科会の現場の状況、参加された分科会で議論も踏まえて、これからの地域づくりに何が一番必要

かについてご発言ください。

#### 山口 成美 長崎大会実行委員長

長崎は坂が多いと言われます。上り坂と下り坂どっちが多いでしょう。当然、上り坂もたくさんあります。下り坂もあります。今、正直言って世の中下り坂かもしれません。もうでも、今からはここが底ですので、今から伸びるばかりなんです。とにかく前を向いて、一緒に地域で力を合わせて一緒になって盛り上がる。足を引っ張るのではなく、手を引っ張ることによってみんなで一緒に、行政と官民一体となって、地域を盛り上げる。これは全ての思いだと思いますので、一緒になって全国各地の地域づくりを、手をつないで盛り上げていければと思います。

よろしくお願いします。

#### 岡崎会長

山口さんから昨日聞いた“増えるローソン、減る農村”は素晴らしい比喻です。一言解説をお願いします。

#### 山口 成美 長崎大会実行委員長

農家が、昨日報告にきたのですけれども、半年かかって作ったお米の茶碗一杯の原価が20円です。

ローソンでは100円です。このままでは、農村はどんどん減少して、ローソンはどんどん増えていきます。ラーメン屋さん150円、ホテルのランチのライスは300円、20円が100円になっても大したことはないけど、20億が100億になったらどうでしょう。

厳しい厳しいって言っていますけれども、まだまだ工夫の仕方によっては未来があると考えています。

そういったことを一つのヒントとして地域づくりに生かしていければと思います。

#### 宇高 昌利 兵庫大会実行委員長

「長崎さるく」さらっと歩くはずだったんですけども、昨日だけでも1万5000歩、それ

も坂道を歩きまして大変まだ痛いです。

それはさて置き、長崎の話じゃなくて悪いんですけども、コーディネーターの方が地域を新しく作るためには、プランは若者に託しなさいと、町づくりは10年後20年後を考えるんだというお話がありました。「若者達の時代のことは、60歳までの人がまず考える。それを越えた方々は、いかにそれを応援するか、それがみんなのパワーになるのだろう」という話を聞かせてもらいまして、なるほどなと思いました。

私もその上の年齢になるのですが、まだまだこれから応援団として頑張りたいと思います。皆さんもよろしくお願いします。

#### 細田 浩之 島根大会実行委員長

まだ確かにコロナは全然落ち着いていない状況ではございますが、ただ今流れはもうwithコロナの方になってきているという風に思っております。

今回「地域づくりの夜明けは長崎から」というテーマがございましたけれども、本当にwithコロナに向かって新たな展開がここから始まるのではないかなという風に感じております。



そういった中で、私も昨日第1分科会の方で、いろいろ歩いてお話を聞かせてもらったのですが、やっぱり人づくり、そして次の時代への継承、そういったことも含めながら地域づくりを進めていかなきゃいけないということを非常に参考にさせていただきましたし、我々上の世代も応援をしながら、若い世代へも引き継いでいきたいと感じたところでございます。

#### 岡崎会長

地域社会の現場で無自覚に日々を過ごしているだけでは、地域づくりの難しい局面を開くことは出来ないでしょう。懸命に学ぶ、そして地域の皆さんで角を突き合わせて議論するということが不可欠だと思います。

学び、議論すれば課題も出てくる、越えなければならぬハードルも見えてくる。そうした時、一旦地域の現場から離れて、相対的に自分たちの地域をもう一度見直してみるということも必要でしょう。それが交流であったり、現地を旅するという事ではないでしょうか。

友達や同志を募って、地域づくりの現場を旅し、意見を交換して、次の地域づくりに繋がる視点を得ることが重要です。

地域づくり団体全国協議会でも研修や今回のような交流の機会を増やして、実り多いものにしていきたいと思います。今回、こういう形の対面で多くの皆さんとお会いができ、皆さんの間でも「おう3年ぶり」という会話が飛び交っていました。

長崎県は離島を多く抱える県ですが、その離島からも今回のようにリモートで、ほぼ対面と変わらない形での情報交換ができました。そのために色々な機器を準備し、御苦労いただいた皆さんにもお礼を申し上げます。対面での交流、新しいICTをフル活用してリモートでもやりとりする新時代になってきました。こういう状況をフルに活用し、これからも地域づくりに取り組んでいきましょう。



# 次回開催県 PR

## 島根県



来年もこの時期に島根で全国大会を開催いたします。

島根の方、全県下8分科会に分かれて開催しようというふうに考えております。

まずは、最初に各分科会からPRをさせていただきます。

### <第1分科会「安来市」えーひだカンパニー株式会社>

安来市が第1分科会会場です。今日も明日も10年後もずっとええ日田を合言葉に日田を愛し行動し、誇りに思える地域を目指して活動しています。

### <第2分科会「松江市」松江NPOネットワーク>

まち歩きをしながら歴史や文化に出合える、謎解きゲームやお茶席体験など、松江の魅力で多くの豊かな文化力を生かしたプログラムを企画しています

### <第3分科会「出雲氏」出雲国ジオガイドの会>

観光や教育に貢献しながら、地元の皆様に地元の素晴らしさを感じてもらい、地元愛を持っていただき、地域振興につながっていくように心がけております。

### <第4分科会「江津（ごうつ）市」特定非営利活動法人てごねっと石見>

なかなか目立たない町ではありますが、面白い魅力がたくさんありますので、ぜひ来年江津市にお越しください。

### <第5分科会「浜田市」今福まちづくり委員会>

農家の栽培をしたものやまちづくりが独自につくっております。ブドウシャインマスカットを朝市で安く市民の皆さんに提供しています

### <第6分科会「邑南（おおなん）町」特定非営利活動法人江の川鐵道>

JR三江線が廃止されましたが、逆手にとって、地域振興できないかなということで、活動しています。

トロッコを動かして、是非乗っていただけるんじゃないかなと思っています。

### <第7分科会「益田市」とよかわの未来をつくる会>

楽しく子供も大人もそれから自分達でというキーワードで、自分達がやってみたいということ、何とか実現してやってやろうという思いで、取り組んでいます。

### <第8分科会「島前（どうぜん）」一般社団法人島前ふるさと魅力化財団>

島根県の離島隠岐諸島にあります。地域全体として人づくりをしていくことを目指して活動をしていっています。

ただ今紹介させていただきました、8分科会の会場に分かれまして、来年この時期に島根県全県下でこの全国大会を開催させていただきます。

この時期と言いますと旧暦でいうと、10月になります。

旧暦の10月は全国的には神無月と言いますが、島根県では実は神在月と言っております。全国から神様を迎えて、縁結びなど諸々の会議をするというふうに使われております。

来年この時期に全国から地域づくりに携わる皆様をお招きして、いろいろなご縁が結びつき、つながりができることを大変期待しております。

どうぞ皆さん、島根県に来年ぜひお越しください。

## 閉会あいさつ

長崎大会実行委員長  
山口 成美



皆さん、3日間大変お疲れさまでした。

開催を後押ししていただいた、主催の地域づくり団体協議会の岡崎会長、また総務省の大村審議官、地域活性化センターの川住常務には本当に開催に向けていろいろな御指導御助言をいただきまして、誠にありがとうございます。

おそらく、長崎で13分科会もあってどうなるのだろうという風に皆さん方も思っていたのではないかなと思いますけれども、13分科会それぞれが充実した素晴らしい取り組みであり、皆様方も感動をいただけたんじゃないかなと思います。

それぞれの新たな出会い、またヒントが隠されてあったのではないかなと思います。

そのヒントの種まきをそれぞれの地域に持ち帰っていただいて、さらに地域で新たな芽を出していただいて、さらに活性化するようにしていただければ開催したものとして、非

常に喜びにたえません。

また、来年は島根ということで必ず行きま  
すよって言いましたけれども、おそらく皆さん方もそうだと思います。

来年島根に行きたい方いらっしゃいますでしょうか？

今、日本野鳥の会で見ますと、200人ぐらい超えているみたいですので、島根県の方は覚悟しておいて下さい！皆さん一緒になって、島根に行きたいと思います。

これで安心して、島根県にバトンタッチができると思います。

終わりに、ますますこの地域の活性化につなげる今回のテーマであります「地域づくりの夜明けは長崎から」ということで、長崎の新たな出会いを、次のヒントに地域が更なる活性化をすることを祈念申し上げまして、閉会のご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。



## ☆分科会にご参加いただいた皆様

### 第1分科会：

艶島博（長崎県） 古閑文恵（沖縄県） 豊島夕起子（香川県） 金井紗希（栃木県） 細田浩之（島根県） 小笠原勝司（島根県） 坂根文（島根県）  
河野利文（島根県） 田村進治（静岡県） 榊原幸雄（静岡県） 中村光彦（宮崎県） 木村正樹（宮城県） 伊藤美子（青森県） 山田勝俊（長崎県）  
大木和彦（福島県） 江浦誠（熊本県） 生駒春美（熊本県） 福島貴志（熊本県） 仲佐英哲（島根県） 宇高昌利（兵庫県） 榊芳輝（東京都）  
山中修二（長崎県） 倉橋邦博（長崎県）

### 第2分科会：

山崎亜美（長崎県） 川内孝之（熊本県） 河野良太（宮崎県） 田中輝央（島根県） 日高弘之（島根県） 米田大吉（青森県）  
伊波晋（沖縄県） 園田真美（長崎県） 吉岡荒野（長崎県） 村山真之（長崎県）

### 第3分科会：

木村将雄（長崎県） 島袋次郎（沖縄県） 新里徳三（沖縄県） 中村淳（長崎県） 藤岡オサム（香川県） 岩本洋一（島根県）  
福岡裕介（島根県） 遠藤正嗣（島根県） 岩崎敏（島根県） 清水啓介（長崎県） 小浦良介（長崎県） 河内美和子（長崎県） 嶋津嘉浩（長崎県）

### 第4分科会：

藤本峰子（熊本県） 諸見謝さゆり（沖縄県） 稲田優（熊本県） 犬童悠哉（熊本県） 藤原崇史（島根県） 田邊泰成（島根県） 渡邊志朗（島根県）  
田邊裕子（島根県） 吾郷和宏（島根県） 田原米里子（島根県） 佐々木賢太（埼玉県） 工藤誠也（青森県） 有本武史（香川県） 岡崎昌之（東京都）  
川住昌光（東京都） 増山宏（長崎県） 木下拓弥（長崎県）

### 第5分科会：

山崎智宏（長崎県） 寺原史紀（宮崎県） 野川喜美子（宮崎県） 菊地悠太（和歌山県） 小川聡（熊本県） 名田敬仁（宮崎県） 竹下美敬（熊本県）  
渡邊洋馬（東京都） 西川由香里（長崎県） 堤田翔太（長崎県） 小林純（長崎県） 友松大輔（長崎県） 水田昂希（長崎県）

### 第6分科会：

山崎晴世（群馬県） 山本宏史（島根県） 野田克哲（香川県） 橋本裕生（香川県） 蟻正直揮（熊本県） 濱口仙太郎（熊本県） 山崎聖矢（熊本県）  
山崎繁治（熊本県） 長友美波（熊本県） 椎葉一誠（熊本県） 山崎幸治（熊本県） 松尾亮子（長崎県） 前田由美（東京都） 坂井文孝（長崎県）  
村井幸輔（長崎県）

### 第7分科会：

家迫秀和（島根県） 山口真樹子（長崎県） 中津瀬良平（群馬県） 岡田雄邦（兵庫県） 名畑浩一（兵庫県） 松本貞人（兵庫県） 藤原慎一郎（兵庫県）  
大北真彰（兵庫県） 遠山好勝（熊本県） 勝部考子（島根県） 古家公晴（熊本県） 本田節（東京都） 立山雄太（長崎県） 原俊一郎（長崎県）

### 第8分科会：

茂木八千代（埼玉県） 村本和賀南（石川県） 濱田彩乃（兵庫県） 大宮慶子（兵庫県） 鈴木陽（栃木県） 竹本亮（島根県） 恩村大樹（島根県）  
藤田貴子（島根県） 香川円佳（香川県） 沢畑亨（熊本県） 前田昌宏（熊本県） 福山博章（熊本県） 藤本千代美（熊本県）  
元山義智（長崎県） 吉野純花（長崎県）

### 第9分科会：

黒田泰晴（長崎県） 松島泰代（熊本県） 柳楽和志（島根県） 西川昇（宮崎県） 徳永由佳（宮崎県） 藤巻佑輔（宮崎県） 徳永貢（宮崎県）  
島崎淳二（兵庫県） 中尾由紀（島根県） 藤間博之（島根県） 小川晃平（福岡県） 鶴羽浩（宮崎県） 野邊そらん（島根県） 杉田憲英（東京都）  
吉川孝也（長崎県） 深堀晶子（長崎県） 大村慎一（東京都） 中原賢二（東京都）

### 第10分科会：

木村幸一（兵庫県） 仲田芳人（岡山県） 来山嘉孝（福岡県） 新垣大輝（沖縄県） 松原光彦（宮崎県） 植村朱美（宮崎県） 原山はるみ（宮崎県）  
大谷真智子（兵庫県） 河田雅史（岡山県） 佐藤日向（島根県） 齋藤寛之（島根県） 清水寛之（島根県） 竹田尚子（島根県） 星野佳代（島根県）  
歌津文起（宮崎県） 島中星勝（宮崎県） 芳重博文（香川県） 濱博一（石川県） 章潔（長崎県） 萩田勝則（長崎県） 野上英理子（長崎県）  
本間歩（東京都） 田島瞳（長崎県）

### 第11分科会：

宮崎吉男（長崎県） 小笠原啓太（島根県） 前田みのり（島根県） 渡辺一枝（島根県） 井上優（宮崎県） 見村隆正（香川県） 江崎孝俊（熊本県）  
栗原隆（長崎県） 福井樹夫（長崎県） 小北逸郎（香川県） 横山泰成（東京都） 赤尾美望（長崎県） 下條光希（長崎県）

### 第12分科会：

今岡良（島根県） 古瀬卓（長崎県） 石倉一彰（島根県） ロドリゲス拓海（島根県） 下垣奈空（島根県） 高木慎平（宮崎県） 生野しづ子（福井県）  
多田憲市（福井県） 金丸美保子（宮崎県） 佐藤啓太郎（東京都） 柳井雅也（東京都） 卯木孝明（東京都） 井上誠二（長崎県） 平尾順平（長崎県）

### 第13分科会：

岩見しおり（島根県） 木下道則（兵庫県） 三根礼華（長崎県） 二神愛美（広島県） 川取雅也（島根県） 藤田諭（島根県） 石川厚志（島根県）  
熊谷浩志（東京都） 山村修生（長崎県） 三宅亮一（長崎県） 浦亮治（長崎県） 浦由架（長崎県） 楠本ゆうこ（長崎県）

## 参加者の声

- 長崎県全体での盛り上がり方に驚きました。グリーン・ツーリズム団体が解散したり、地域づくり活動が停滞している中で、もう一度立ち上がりたい気持ちが湧きました。ありがとうございました！
- 各地域で分科会の内容、発表スタイルも異なっており、地域活動も様々であり、型にはまらない、自由な発想、取組が重要であることを再認識できました。
- 他の分科会の報告を詳しく聴けて、とても参考になりました。学んだ事を自分の地域に持ち帰り共有し良かった事例など、取り入れて地域活性化に繋がりたいと思います。
- いろんな考え方が有るなかで、少し怖い感じが有りましたが、大体同じ気持ちの方が多いような気がしました、どの地域も同じような悩みや、問題を抱えながらできる事からやる！と言う考え方で、前へ進めば良いんだなと考える事ができました。
- 13分科会場の参加者が各々満足され有意義な研修であった事が伺われました。人材育成と活動の継承は全てに通ずる課題であると改めて感じました。
- 様々な取組みが紹介され参考になった。長崎の魅力が伝わってきた。
- 各分科会が地域づくりの参考になったか、もう少し知れると良かった。最後のパネルディスカッションをしっかりと聴きたかった。各分科会の発表を踏まえた意見、感想など。
- こうして実際に訪れて多くの取組みについて学ぶことができ、今後の業務の参考になった。しかし、全体的に時間に余裕のない行程だったように思う。限られた日数の中でたくさんの要素を入れておられて、多くのことに触れることはできたが、一つ一つを余裕を持って楽しむことができるとより良かった。
- 山口会長の「足を引っ張るのではなく手を引っ張る」という言葉がまさしくその通りで、行政としてできるサポートをしていかなければ、という決意を持つことができた。
- 若者を育てるためには、年寄りには優しく支えてあげる。これはなかなかできることではない。
- 地域づくりは資金と人であり、そして人づくりはやはりその要であること。
- 13分科会どれも興味深いものでした。人材がプロが多いなと感じました。
- 各分科会の成果が共有できて良かったです。遠い離島に行かれた方も充実していた様でした。官民一体で連携してゆきたいと思います。
- 離島分科会からのTV会議での発表がよかった。
- 地元の方々と移住者のつながりが素晴らしかった非常に参考になりました。
- 全国の同志と意見を交わしネットワークが広がったこと。地域づくりは足を引っ張るんじゃなく、手を引っ張ることの言葉が印象的だった。
- おもてなしの大切さをぞんぶんに感じた。ありがとうございました。
- 全国で広く活動されている若い方々に期待します。景勝地、農・漁業産品のアピール方など都会にもっと進出しては如何でしょうか。東京人には知らないことばかりでした。もったいないですね。
- 全国から地元を愛する人が集まりシェアすることによって良いものが生まれるすごい取組みなので続いてほしい。
- 他分科会の地域ごとの様子が分かりました。個性あふれる分科会とお世話を下さったコーディネーターの方々や地元の方からのおもてなしが創意工夫されていてどこの分科会にも参加したかったと感じま

した。特に長崎は離島が多いのでその地域ごとの文化の違いをそれぞれで体験できたことは学びと楽しさと初体験を地元に移し、地元のネタ探しに意欲が出てきました。

- それぞれの地域の違いによって“良さ”の活かし方が違う事、また、シニア世代は若者層を応援していくべきというマインドは大変参考になりました。
- 今回、所属している地域グループの若い人が刺激をもらって欲しいと思い参加しました。ファーストペンギン、セカンドペンギンになれても、続かないと意味がありません。その意味でも参加して、若い人たちが他のグループの人からいろいろな話が聞けて良かったのではないかと思います。ありがとうございました。
- お世話になりました。今回知り合った方々とのつながりを大事にしたいと思います。
- 本当にお疲れ様でした。次の全国大会へと繋ぐ素晴らしい大会でした。この3年間モチベーションを持ち続ける努力は相当の事だったと思います。長崎の皆さん本当にお疲れ様でした。
- スタッフの方がはっぴを着ておられて分かりやすかったです。参加させていただいて本当に良かったです。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。お疲れ様でした。島根大会頑張ります。
- 今回の長崎地域おこし研修会に参加させて頂き長崎県の事が大好きになりました。また長崎に旅行に来て、色々な地域を見てみたいと思います。大変ありがとうございました。
- このような前しか向いてない会は、かなり勉強になりますし、自分自身のモチベーションが上がり、元気をもらいました。来年また皆様に会える事を楽しみにして、仕事や地域おこしに貢献しながら頑張りたいと思っています。
- リピート参加者の多さに驚きました。若者の参加がもっと必要だと感じました。
- 長崎の離島の暮らしのことは、ほとんど知らなかったのので、直に体験できてよかったです。共通した問題もたくさんありました。でも、楽しんで暮らすことが第一だと改めて思った次第です。運営については、よかったこと、課題もあったかと思います。次回へと積み上げていくシステムを期待したいです。長崎の皆様、お疲れ様でした。
- 長崎で地域づくりの夜明けを感じた。あきらめないで取り組みたいと思いました。ありがとうございました。
- 地域づくり活動を行う方が交流することの意味を知ることができた・今後活動に携われる方の広がりがあると思うようになっていくか考えていく必要があると感じた。

## 協賛企業

株式会社平安閣

壱岐の蔵酒造

壱岐オリーブ園株式会社

伸栄電機工業(株)

株式会社メモリード

(株)日本旅行長崎支店

聖白歯雪公園諸津観音

長崎空港ビルディング株式会社

長崎県交通局

バイオパーク株式会社

九州郵船株式会社

ホテルニュー長崎

(株)雲仙きのこ本舗

株式会社玄海交通



# 全体交流会 コートギャラリー





サンプリエール長崎 令和4年11月4日





**全体会 令和4年11月6日**





長崎大会へご参加いただきありがとうございました。  
これからも「歩みをとめない地域づくり」を  
一緒にがんばっていきましょう。

## 全国の地域づくり団体が交流 長崎、あすまで研修会

全国の地域づくり団体が約250人が集まった長崎大会「長崎市元船町、平安閣サンプラエール



全国の地域づくり団体が集まって研修や情報交換する「第38回地域づくり団体全国研修交流会長崎大会」が4日に始まり、長崎市内のホテルで参加者約250人の全体交流会があった。テーマは「開国の地 長崎、地域づくりの夜明けは長崎から」。5日は離島を含む県内13会場で分科会、6日は各分科会の報告などがある。

主催は地域づくり団体全国協議会、同大会実行委員会、県地域づくりネットワーク協議会。対面での開催は3年ぶりで、長崎では22年ぶり。山口成美実行委員長は「2回の延期を経てようやく今日を迎えた。つながりをより深め、ますます地域が盛り上がるように一緒に頑張ろう」とあいさつした。

分科会は本土8会場、離島5会場。大村市のおおむら夢ファームシユシユでは、農業の6次産業化とグリーンツーリズムに取り組んだ実践者との交流、新上五島町では上五島ふるさとガイドの会と一緒に、無人島体験や教会の見学などが予定されている。

島根県から参加したNPO法人「ごねっと石見」の藤田貴子理事長(48)は「来年は島根で大会がある。長崎でしっかり楽しみ、地域づくりやおもてなしを学んで生かしたい」と話した。(北里友佳)

2022年(令和4年)11月5日土曜日 長崎新聞

## 「さるく」やパネル討議も

地域づくり団体交流会 県内13会場で分科会

「第38回地域づくり団体全国研修交流会長崎大会」2日目は5日、県内13会場で分科会があり、参加者は県内各地で取り組む地域活動を見学したり、体験したりした。東彼波佐佐見町であった分科会では、参加者が伝統産物の陶磁器を生かしたまち



ガイドの解説を聞く参加者  
＝長崎市、国指定史跡「出島和蘭商館跡」

が「長崎さるく」に由来する『まち活かし』『ひと活かし』がテーマ。NPO法人長崎コンプラドールがコーディネーターを務めた。参加した21人は、同市南山手町などの旧居留地や眼鏡橋、国指定史跡「出島和蘭商館跡」などを回った。

同史跡内の「旧長崎内外クラブ」では、長崎で活躍する若者を招きパネルディスカッションを開催。同法人の桐野耕一理事長(67)と「長崎市・景観研究所」の草野秀樹さん(34)、神奈川県出身のユーチューバー品川正之介さん(31)が、自身の活動や地域に関わるきっかけ、多様な人が活動に携わりやすい受け皿の環境などについて語った。

草野さんは「何かをやりたい人に声をあげ応援する文化、ネットワークを広げることが必要」と話した。最終日の6日は、長崎市で各分科会の報告がある。(柴崎優衣)

2022年(令和4年)11月6日日曜日 長崎新聞

# 次回大会のご案内



## 第39回地域づくり団体 全国研修交流会島根大会



### 1. 日程

令和5年11月10日(金)～12日(日)  
10日・11日分科会、11日全体交流会、12日全体会

### 2. 大会テーマ

テーマ：ご縁でつながる 地域づくり  
サブテーマ：～島根から はじまる 新たな物語～

### 3. 会場

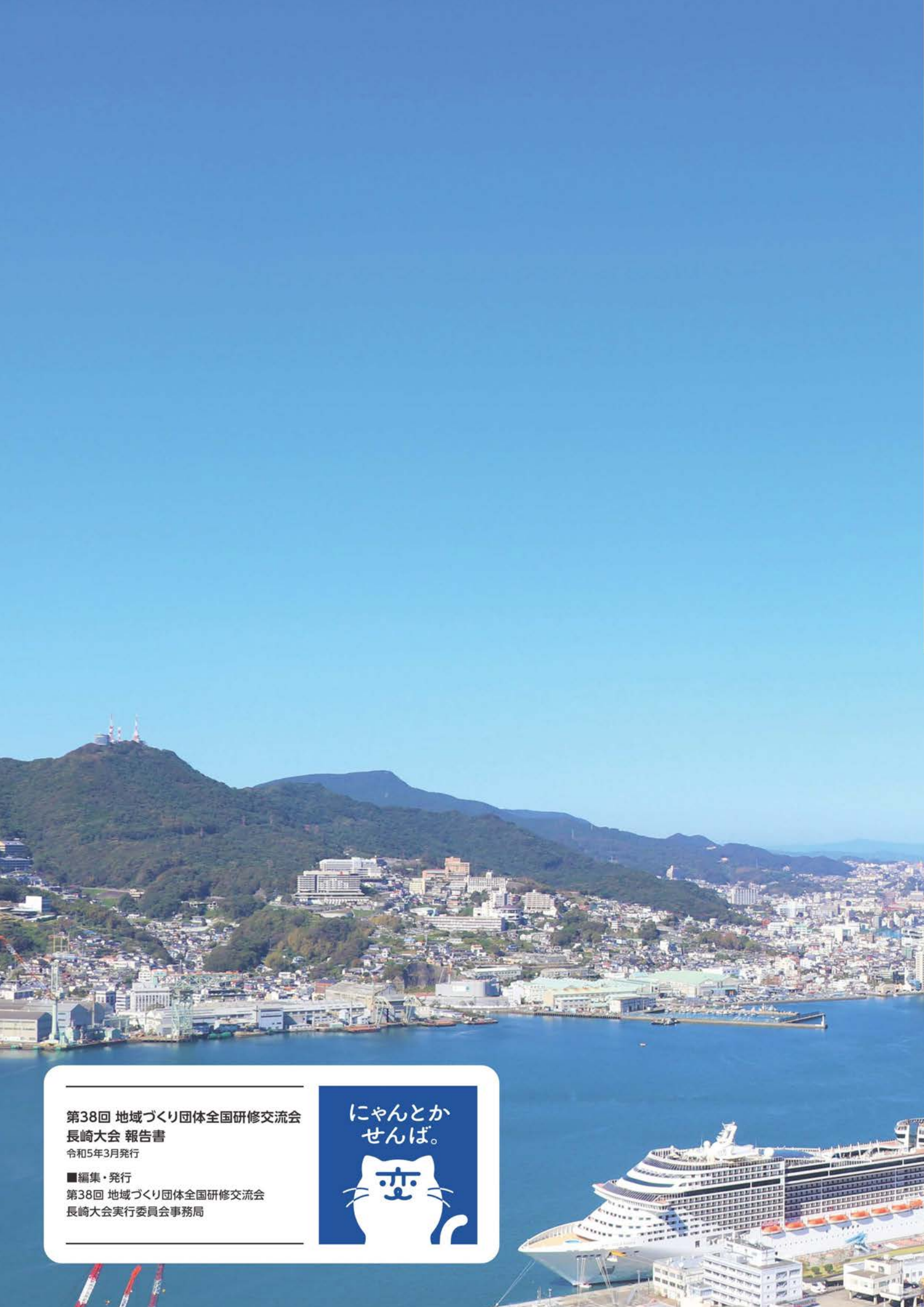
全体交流会(予定)

サンパレス益田(益田市高津町)

全体会

島根県芸術文化センター グラントワ 小ホール(益田市有明町)





第38回 地域づくり団体全国研修交流会  
長崎大会 報告書

令和5年3月発行

■編集・発行

第38回 地域づくり団体全国研修交流会  
長崎大会実行委員会事務局

にゃんとか  
せんば。

